

タイトル：フランス語の prendre タイプの動詞がとる場所補語について—非線状的事態認知モデル

著者：平塚 徹

要旨：

本稿は、フランス語の prendre タイプの動詞が取る場所補語の意味と機能を検討し、その背後にある事態の概念化のあり方を明らかにすることを目的とする。フランス語では、移動の起点は通常前置詞 de によって標示されるが、prendre や cueillir などの動詞では、起点と解釈される場所が dans や sur などの位置前置詞によって標示される。本稿では、この現象を詳細に分析し、問題の前置詞句が目的語名詞句の内部要素ではなく、動詞の項として機能していることを示す。さらに、これらの前置詞自体が起点の意味を持つわけではなく、動詞との結合により、結果としてその場所が被動作主の移動の起点と一致すると解釈されることを論じる。

また、この構文が主として「入手」を表す動詞に見られることに着目し、ここで表されている場所は被動作主の移動の起点というよりも、動作主が対象物を入手するためにアクセスする場所として理解されるべきであると主張する。さらに、英語などでは入手という事態が「動作主→被動作主→移動」という因果関係の連鎖として概念化されるのに対し、フランス語では動作主が場所と被動作主の双方に関わる構造として捉えられることを指摘する。このような事態の捉え方は、Langacker の action chain や Croft の causal chain に代表される線状的事態認知モデルとは異なり、動作主から二股に分かれた非線状的事態認知モデルとして特徴づけられる。

以上の考察から、フランス語の prendre タイプの動詞の場所補語は、移動の起点を直接表すものではなく、入手行為におけるアクセス場所を表すものであり、この構文はフランス語における事態概念化の特徴を反映したものであることを示した。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

平塚徹 (2008)「フランス語の prendre タイプの動詞がとる場所補語について—非線状的事態認知モデル」児玉一宏・小山哲春 (編)『言葉と認知のメカニズム—山梨正明教授還暦記念論文集—』東京：ひつじ書房, pp.1-13

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

フランス語の *prendre* タイプの動詞がとる場所補語について：

非線状的事態認知モデル

平塚 徹

1. はじめに

フランス語では、移動の起点は一般的に前置詞 *de* で標示される。例えば、次の文では、引き出しが拳銃の移動の起点となっているために、前置詞 *de* で標示される。（「不」は不定冠詞を、「定」は定冠詞を表す。また、*du* は前置詞 *de* と定冠詞 *le* が縮約したものである。）

- (1) Il a sorti un revolver du tiroir.

彼は 出した 不 拳銃 から・定 引き出し

彼は引き出しから拳銃を取り出した。

しかし、それ以外の前置詞によって起点が標示されているように見える場合も存在する。

- (2) Il a pris un revolver dans le tiroir.

彼は 取った 不 拳銃 DANS 定 引き出し

彼は引き出しの中の拳銃を取った。

- (3) Il a pris un stylo sur la table.

彼は 取った 不 ペン SUR 定 テーブル

彼はテーブルの上のペンを取った。

ここで使われている前置詞 *dans* と *sur* は、それぞれ、「～の中に」や「～の上に」という意味で、ほぼ英語の *in* や *on* に相当するものである。

このような現象は *prendre* 以外の動詞でも見られる。Jones (1996: 399) は以下のような例を挙げている。

- (4) Eve a cueilli une pomme sur l'arbre.

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

エーヴ 摘み取った 不 リンゴ SUR 定・木
エーヴは木になっているリンゴを摘み取った。

- (5) Le clochard a ramassé un journal dans la poubelle.
定 浮浪者 ひろった 不 新聞 DANS 定 ゴミ箱
浮浪者はゴミ箱の中の新聞をひろった。

Jones (1996: 400) は、この現象が、移動の着点が動作主と一致するような動詞において見られると述べている。

本稿では、フランス語で、一見、起点であるように思われる項に対して、このような前置詞が使用されるのはなぜか、また、このような現象が特定のタイプの動詞に見られるのはなぜかということを考察する。そして、このことから、Langacker (1990)の action chain や Croft (1991)の causal chain に代表される線状的事態認知モデルとは異なる非線状的事態認知モデルを仮定するべきであることを論じる。

2. 前置詞句は目的語名詞句の補語ではなく動詞の項である

問題の前置詞句は、日本語訳のように目的語名詞句を修飾していると思われるかも知れない。この場合、(2)や(3)の統語構造は、以下のようになるⁱ。

- (6) Il a pris [NP un revolver [PP dans le tiroir]].
(7) Il a pris [NP un stylo [PP sur la table]].

しかし、この分析は妥当ではない。先ず、前置詞句を名詞句の前に置くことが可能である。

- (8) Il a pris dans le tiroir un revolver.
(9) Il a pris sur la table un stylo.

このことは、前置詞句が名詞句内部にあると仮定するよりも、次のように、

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

動詞の項であると仮定する方が自然であることを示唆している。

(10) Il a pris [NP un revolver] [PP dans le tiroir].

(11) Il a pris [NP un stylo] [PP sur la table].

これだけでは、前置詞句が名詞句から抜き出されただけではないかと考えられるかも知れない。しかし、問題の前置詞句の代わりに、名詞句内部には生起できない要素を使用することも可能なのである。以下に、前方照応の副詞 *dedans*、接辞代名詞 *y*、外部指示の副詞 *là-dedans*、場所の疑問副詞 *où*、場所の関係副詞 *où* を用いた例を挙げる。

(12) Il a ouvert un tiroir et

彼は 開けた 不 引き出し そして

il a pris un revolver dedans.

彼は 取った 不 拳銃 その中に

彼は引き出しを開けて、その中の拳銃を取った。

(13) Il a ouvert un tiroir et

彼は 開けた 不 引き出し そして

il y a pris un revolver.

彼は そこに 取った 不 拳銃

彼は引き出しを開けて、そこにある拳銃を取った。

(14) (引き出しを指して)

Tu peux prendre un stylo là-dedans ?

君は できる 取る 不 ペン その中に

その中のペンを取ってくれる。

(15) – Où a-t-il pris le revolver ?

どこに 彼は取ったか 定 拳銃

彼はどこから拳銃を取り出したか。

– Dans un tiroir du bureau.

DANS 不 引き出し の・定 机

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

机の引き出しからだ。

- (16) Le tiroir où il a pris le revolver,
定 引き出し 関係副詞 彼は 取った 定 拳銃
c'est celui-ci.
それは-だ これ
彼が拳銃を取り出した引き出しは、これだ。

このことは問題の場所前置詞句が名詞句内で生成されたものでないことを示唆している。

場所前置詞句が動詞の項であることを支持する現象は他にもある。例えば、次の文では、前置詞句は目的語名詞句内にあると思われるかも知れない。

- (17) Pour prendre quelque chose dans un tiroir,
ために 取る 何か DANS 不 引き出し
il faut l'ouvrir.
しなければならない それを-開ける
引き出しから何かを取り出すためには、それを開けなければならない。

他方、動詞を入れ替えた次の文では、前置詞句は動詞の項である。

- (18) Pour mettre quelque chose dans un tiroir, il faut l'ouvrir.
入れる
引き出しに何かを入れるためには、それを開けなければならない。

ところが、前置詞 **dans** を兼用して、両方の動詞を並列することが可能である。

- (19) Pour mettre ou prendre quelque chose dans un tiroir,

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

あるいは

il faut l'ouvrir.

引き出しに何かを入れたり、そこから何かを取り出したりするためには、それを開けなければならない。

このことは、動詞 *prendre* と共起する場所前置詞句が、動詞の項であることを示している。なぜなら、動詞 *mettre* が目的語名詞句と場所補語を取っている以上、それと並列される動詞 *prendre* も同様であると考えられるからである。

同じことは、*puiser* や *prélever* など、他の動詞でも成り立つ。（「部」は、部分冠詞）

(20) *On peut mettre, conserver et puiser*

人は できる 入れる 保存する そして 汲み出す

de l'eau dans une citerne.

部・水 DNAS 不 貯水池

貯水池に水を入れて、保存し、そこから水を汲み出すことができる。

(21) *Peut-être, il a injecté ou prélevé quelque chose*

多分 彼は 注入した あるいは 採取した 何か

dans le corps de cet animal avec une seringue.

DANS 定 体 の この 動物 で 不 注射器

多分、彼は注射器でこの動物の体内に何かを注入するか、そこから何かを採取するかしたのだ。

以上から、本稿で扱っている構文の場所前置詞句は、動詞の項であると考えられる。

3. 目的語名詞句の指示対象の移動は含意されている

本稿で問題にしている動詞 *prendre* は、「取る」という意味ではなく、「つかむ」という意味ではないかと思われるかも知れない。そのように考えれ

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

ば、移動は関与しておらず、そのため起点も関係なくなる。そして、**dans** は「～の中で」、**sur** は「～の上で」という通常の意味になり、問題は生じないことになる。しかし、以下のような例では、移動が含意されていると考えるべきであろう。

(22) Prends une boîte de bière dans le frigo, s'il te plaît.

取れ 不 缶 の ビール DANS 定 冷蔵庫 どうぞ
冷蔵庫の中の缶ビールを取ってくれ。

(23) Il a pris un paquet de cigarettes dans sa poche

彼は 取った 1 箱 の たばこ DANS 彼の ポケット
et il l'a mis sur la table.

そして 彼は それを・置いた の上に 定 テーブル

彼はポケットの中の1箱のたばこを取って、テーブルの上に置いた。

また、以下の例では、動詞は移動を含意しており、しかも、前置詞 **dans** や **sur** が移動の起点を表しているように見える。

(24) Il a puisé un litre d'eau dans la rivière.

彼は 汲んだ 1 リットル の・水 DANS 定 川
彼は川から1リットルの水を汲んだ。

(25) Il a prélevé un échantillon de sang dans la veine.

彼は 採取した 不 サンプル の 血液 DANS 定 静脈
彼は静脈から血液サンプルを採取した。

(26) Il a ramassé un stylo sur le sol.

彼は ひろった 不 ペン SUR 定 地面
彼は地面の上のペンをひろった。

このように、移動を表している動詞に対して、前置詞 **dans** や **sur** が起点を表しているように見えるという例は存在しているのである。

4. 前置詞自体に起点の意味は無い

本来、前置詞 **dans** は「～の中に」、前置詞 **sur** は「～の上に」という意味であるが、本稿で問題にしている構文においては、起点が前置詞 **dans** や **sur** によって標示されているように見える。それならば、この場合には、それぞれの前置詞が「～の中から」や「～の上から」という起点の意味を表すものであると考えれば良いと思われるかも知れない。実際、従来の辞書にもこのような記述が見られる。しかし、このような考え方は適切ではない。なぜなら、このように起点を表すかのように見える場所表現は多岐にわたるからである。例えば、以下の例を見られたい。

(27) Il a pris un stylo sous la table.

彼は 取った 不 ペン の下に 定 テーブル

彼はテーブルの下のペンを取った。

(28) Il a pris une feuille de papier derrière le frigo.

彼は 取った 1 枚 の 紙 の後に 定 冷蔵庫

彼は冷蔵庫の後の1枚の紙を取った。

(29) Il a pris un revolver au fond du tiroir.

彼は 取った 不 拳銃 に-定 奥 の-定 引き出し

彼は引き出しの奥の拳銃を取った。

(30) Il a pris un morceau de fromage

彼は 取った 1 かけら の チーズ

à l'intérieur du frigo.

に 定-内部 の-定 冷蔵庫

彼は冷蔵庫の中のひとかけらのチーズを取った。

また、第2節の(12)から(16)で見たとおり、その他にもさまざまな場所表現が可能なのである。もし、前置詞 **dans** や **sur** 自体に、それぞれ、「～の中から」や「～の上から」という起点の意味があるとする、上述のすべての場所表現にも、それぞれ、起点の意味があるとせざるを得ない。これでは、重要な一般化を逃すことになる。むしろ、個々の場所表現自体は起点

の意味を表していないが、動詞 *prendre* と使用した場合には、意味解釈の結果、その場所表現の指示する場所が移動の起点と一致すると考える方がよい。

動詞 *prendre* が取る場所補語について、それぞれに起点の意味があると認めることは、重要な一般化を逃すだけでなく、記述に矛盾をもたらす。第 2 節の(19)で見たとおり、場所前置詞句を兼用して、動詞 *prendre* は「置く」という意味の動詞 *mettre* と並列することができる。*mettre* と用いられた *dans* は「～の中に」という意味であるから、もし *prendre* と用いられた *dans* が「～の中から」という意味だとすると、両方の動詞が並列されている場合には、*dans* は、「～の中に」という意味であると同時に「～の中から」という意味であるということになってしまう。よって、動詞 *prendre* と用いた場合も *dans* 自体は「～の中に」という意味であると考えべきである。前置詞句が指示している場所が移動の起点と一致しているのは、動詞 *prendre* と合わせて解釈した結果に過ぎないのである。同じことは、(20)や(21)で見たとおり、他の動詞でも成り立つ。

以上より、*prendre* 等の動詞が取る場所補語の前置詞自体には、起点の意味は無いと結論できる。

5. 前置詞 *de* が削除されたのではない

本稿で扱っている構文において問題なのは、被動作主の移動の起点となる場所が、明示的に起点として表示されていない点である。この問題について、Guillet & Leclère (1992: 76-78, 169)は、起点を表す前置詞 *de* が削除されたものとして説明している。これに従えば、第 1 節の(2)や(3)は、それぞれ、以下の構造から前置詞 *de* が削除されたものと分析される。

(31) Il a pris un revolver de dans le tiroir.

(32) Il a pris un stylo de sur la table.

確かに、このように考えれば、起点であるはずの場所が起点として表示されていないことに説明を与えることが可能である。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

しかし、この分析では、第 2 節の(19)で見たように、場所補語を兼用して、prendre と mettre を並列できることを説明できない。Guillet & Leclère の分析に従えば、動詞 prendre が現れていることから、前置詞句 dans un tiroir の前にはもともと前置詞 de があったことになる。しかし、もし、もともと前置詞 de があったとすると、本来、前置詞 de を要求しない動詞 mettre との並列がなぜ可能なのか説明できないのである。

6. 前置詞句が表しているのは行為の行われる場所ではない

本稿で問題にしている動詞 prendre は、物を取ることを表している。そこで、前置詞句は、単に、物を取るという行為が行われる場所を表していると考えれば、起点として標示されていないことが自然に説明できると思われるかもしれない。そのように考えた場合、この場所前置詞句は、動詞 prendre の項ではないことになる。

しかし、このような考え方は成り立たない。例えば、殺すという行為が行われた場所を問題にしている次の対話を見られたい。

(33) --- Il a tué la victime dans le salon.

彼は 殺した 定 被害者 DANS 定 客間

彼は被害者を客間で殺した。

--- Non, il a fait ça dans la cuisine.

いや 彼は した それ DANS 定 台所

いや、台所で殺したんだ。

この対話では、動詞句 tuer la victime (被害者を殺す) を代名詞 ça で受ける一方、その行為が行われた場所が訂正されている。この場合、場所前置詞句は動詞の項ではなく、動詞句の外部にある。

ところが、動詞 prendre が取る場所前置詞句について同じことはできない。

(34) --- Il a pris son revolver dans le tiroir.

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

彼は 取った 彼の 拳銃 DANS 定 引き出し
彼は引き出しの中の拳銃を取った。

--- * Non, il a fait ça dans sa poche.
いや 彼は した それ DANS 彼の ポケット
いや、ポケットの中の拳銃を取ったのだ。

つまり、prendre son revolver（拳銃を取る）だけを代名詞 *ça* で受けなおすことはできないのである。このことは、prendre son revolver dans le tiroir（引き出しの中の拳銃を取る）全体が動詞句であり、場所前置詞句が動詞 *prendre* の項であることを示している。

そもそも、第 2 節の(19)で見たように、場所補語を兼用して、prendre と mettre を並列できることから、prendre が取る場所前置詞句が、この動詞の項であることは明らかである。mettre が場所前置詞句を項として取っている以上、同じ場所前置詞句が prendre に対しては動詞句の外部にあって、行為の行われる場所を表しているということは考えられない。

以上より、動詞 *prendre* が取る場所前置詞句は、この動詞の項であると結論できる。

7. 経路関係が動詞に包入されているとするだけでは不十分である

第 1 節の(2)や(3)（以下に再掲）のような文においては、前置詞 *dans* や *sur* 自体は起点の意味を表していないが、動詞 *prendre* との組み合わせによって、指示されている場所が移動の起点と一致すると解釈される。

(35) Il a pris un revolver dans le tiroir.

(36) Il a pris un stylo sur la table.

さて、経路は、松本（1997: 129）の表記に従えば、次のような構造を有している。

(37) 経路関係〈位置関係〈基準物〉〉 ii

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

(38) 方向関係〈基準位置〉

ここで、(35)や(36)の移動の経路の起点側は、(37)の構造を有していて、次のように標示できる。

(39) [FROM [IN [DRAWER]]]

(40) [FROM [ON [TABLE]]]

そうすると、前置詞句自体は、このうち〈位置関係〈基準物〉〉の部分のみを表しており、経路関係である FROM は動詞 prendre に「語彙化」あるいは「包入」されていると考えられるかも知れない（「語彙化」や「包入」については、Talmy (1985)や松本 (1997: 130)を参照）。

しかしながら、このような記述だけでは不十分な点がある。それは、どのような動詞の時に経路関係が動詞に包入されるのか、根本的には説明できないことである。既に見たとおり、Jones (1996: 399) は、問題の現象が被動作主の移動の着点が動作主と一致する場合に起きることを指摘している。このような動詞の場合に、被動作主の移動の起点が、de 以外の前置詞で標示されているように見えるのは、そもそも、なぜであろうか。

被動作主の移動の着点が動作主と一致するような場合とは、言い換えると、動作主が被動作主を入手することを動詞が表している場合である。そうすると、ここまで被動作主の移動の起点と言ってきたものは、実は、被動作主を入手するために動作主がアクセスする場所であるとも言える。例えば、(35)の場合は、拳銃を取るために引き出しの中にアクセスすることになるし、(36)の場合は、ペンを取るためにテーブルの上にアクセスすることになる。このように考えると、それぞれの場合で、前置詞として dans や sur が使用されているのは、動作主がアクセスする場所を示しているからではないかと考えることができる。問題の場所を被動作主の移動の起点と考えると、なぜ、起点として標示されていないのかという問題が生じるのであるが、むしろ、動作主がものの入手のために関わる場所と考えれば、そのような問題は生じないのである。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

逆に、第 1 節の(1)（以下に再掲）のように入手を意味していない動詞の場合には、起点を表す前置詞が使われるわけだが、そのことも自動的に説明される。

(41) Il a sorti un revolver du tiroir.

動詞 *sortir* は、被動作主を外部へと移動させることを表しているだけで、入手するという含意はない。例えば、以下の例では、被動作主は、動作主と一緒に外部へ移動していても構わない。つまり、入手という含意はない。

(42) Il a sorti sa voiture du garage.

彼は 出した 彼の 自動車 から・定 車庫

彼は車庫から自動車を出した。

経路関係 FROM が動詞に包入されることがあると述べるだけでは、なぜ、それが入手を表す動詞では起きるのに、それ以外の動詞では起きないのかが説明できない。それに対して、入手を表す動詞は、入手するためにアクセスする場所を表す補語を取ることができる如果说、被動作主の移動の起点が起点として標示されないという現象がどのような動詞において生じるのかが、自然に説明されるのである。

8. 非線状的事態認知モデル

入手という事態における被動作主の移動の起点は、フランス語では、被動作主の入手のために動作主がアクセスする場所として標示されるが、英語では、フランス語とは異なり、起点として標示される。

(43) He took a gun out of the drawer.

(44) He took a pen from the table.

ここでは、入手という事態が、動作主が被動作主に働きかけて、その結果、

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

被動作主がもとあった場所から移動するという因果関係の線状的な連鎖として捉えられている。

このような事態の捉え方は、Langacker (1990: 215)の *action chain* に見られるものである。参加者は、ビリヤードボール・モデルで表されるように、本来、網の目状に相互作用しあっている。事態の言語化のために、そのネットワークの中から、ある参加者から次の参加者へとエネルギーが一方方向に次々と伝わっていく連鎖が取り出される。これが *action chain* であるが、これは正しく因果関係の線状的な連鎖である。類似したモデルとして、Croft (1991: 162, 169)の *causal chain* もある。ここでも、事態は、因果関係の線状的な連鎖としてモデル化されている。現実の事態はより複雑な構造を有しているものの、このモデルに合わせて概念化されるのである (Croft (1991: 172-173))。これらの事態認知モデルにおいては、因果関係が、枝分かれすることなく、一筆書きのように連なっている。このようなモデルを、線状的事態認知モデルと呼ぶことにすると、英語における、動作主が被動作主に働きかけ、その結果、被動作主が移動していくという事態の概念化は、線状的事態認知モデルに基づくものであると言える。

ところが、本稿で扱っているフランス語の構文では、被動作主の移動の起点は、むしろ、被動作主を入手するために動作主がアクセスする場所として表現されている。この場合には、事態は因果関係の線状的な連鎖としては捉えられていない。なぜなら、フランス語における事態の捉え方は、動作主が被動作主のある場所にアクセスして、被動作主に働きかけるというものであるからである。ここでは、動作主は被動作主と場所の両者に関わっている。つまり、動作主から二股に分かれた非線状的なモデルになっているのである。つまり、フランス語においては、入手という事態が、非線状的事態認知モデルによって概念化されているのである。

入手という事態は、本来、一筆書きの連鎖として表されるようなものではない。この事態の参加者として、動作主・被動作主・場所の三者が想定されるが、どの二者の間にも何らかの関係があると考えられるからである。

(45) a. 動作主が場所にアクセスする

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

- b. 動作主が被動作主に働きかける
- c. 被動作主が場所から移動する

英語では、この中から(45b)と(45c)が選択されており、その結果、動作主が被動作主に働きかけ、被動作主が場所から移動するという線状的なものとして事態が捉えられている。これは、ビリヤードボール・モデルで表される因果関係のネットワークから **action chain** が取り出される操作に対応する。しかし、フランス語では、(45a)と(45b)が選択されており、動作主が場所と被動作主の両者に関わる二股に分かれた事態として捉えられているのである。これは、**action chain** や **causal chain** のような線状的事態認知モデルとは異なる、非線状的事態認知モデルなのであるⁱⁱⁱ。

9. まとめ

フランス語の **prendre** 等の入手を表す動詞が取る場所補語は、被動作主の移動の起点と一致しているが、起点としてではなく、動作主がアクセスする場所として表現されている。このことから、フランス語では入手という事態を、非線状的な事態認知モデルで概念化していると言える。事態の概念化においては、従来、Langacker の **action chain** や Croft の **causal chain** によって代表される線状的事態認知モデルが考えられてきたが、それとは異なる非線状的事態認知モデルも存在しているのである。そして、どのようなモデルによって事態が概念化されるかについては、個別言語により変異が見られる。

ⁱ 場所補語を取る **prendre** を日本語に訳す場合、「～から～を取る」よりも、「～の～を取る」と訳す方が自然な場合がある。そもそも、日本語では、目的語名詞句の指示対象が移動する場合、その起点を動詞の項としてカラ格で標示するよりも、目的語名詞句を修飾するノ格とする傾向が存在すると思われる。例えば、以下の例では、英語では **from** を使用しているにもかかわらず、日本語では、カラよりもノを使用する方が自然である。

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

(i) He cleared the dishes from the table.

(ii) 彼はテーブル（の/?から）皿を片付けた。

そのため、例文の和訳において、しばしば、カラではなくノを使用するが、これはフランス語の統語構造とは関係無い。

ii Jackendoff (1983: 161-170)の表記法に従えば、以下のようになる。

(i) [_{Path} PATH-FUNCTION ([_{Place} PLACE-FUNCTION ([THING]))]

iii 本稿で扱った現象と類似の現象は、飲食を表す動詞でも観察される。詳しくは、平塚（2006, 2008）を参照されたい。

参考文献

Croft, W. (1991) *Syntactic Categories and Grammatical Relations*, Chicago, The University of Chicago Press.

Guillet, A. & C. Leclère (1992) *La structure des phrases simples en français. Constructions transitives locatives*, Genève, Droz.

平塚徹 (2006) 「飲食動詞と場所補語」『フランス語学研究』40: pp.14-22. 日本フランス語学会.

平塚徹 (2008) 「飲み物の容器の表現について-フランス語の場合と言語間に見られる差異」『京都産業大学論集 人文科学系列』38: pp.34-49. 京都産業大学.

Jackendoff, R. (1983) *Semantics and Cognition*, Cambridge, The MIT Press.

Jones, M. A. (1996) *Foundations of French Syntax*, Cambridge, Cambridge University Press.

Langacker, R. W. (1990) *Concept, Image, and Symbol*, Berlin, Mouton de Gruyter.

松本曜 (1997) 「空間移動の言語表現とその拡張」田中茂範・松本曜（著）『空間と移動の表現』pp.126-230. 研究社出版.

Talmy, L. (1985) *Lexicalization Patterns: Semantic Structure in Lexical*

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。

Forms. T. Shopen (ed.) *Language Typology and Syntactic Description. Grammatical Categories and the Lexicon*, pp.57-149. Cambridge, Cambridge University Press.

これは著者原稿です。引用の際は出版社版を参照してください。